

報告

**第 6 回学際物質戦略イニシアティブ
バイオグループシンポジウム
-酸化ストレスと口腔疾患-**

主催：筑波大学学際物質戦略イニシアティブ

共催：文部省科学研究費特定領域研究「ソフト界面」

共催：世界トップクラス拠点 NIMS 国際ナノアーキテクトニクス研究センター

長崎幸夫*

2009 年 11 月 14 日(土)、筑波大学つくばキャンパスにおいて第 6 回学際物質科学イニシアティブバイオグループシンポジウムを行った。今回は「酸化ストレスと口腔疾患」という観点を中心とし、5 件のご講演を頂いた。このシンポジウムのねらいは筑波大学戦略イニシアティブ機構が推進している学際的研究の推進の一貫として、異分野間の融合研究の推進による新たな学際領域を創出していかうとするものである。

昨今、様々な疾患に強く関与することが明らかになりつつある酸化ストレスを中心に、今回は口腔疾患で精力的にご研究されている鹿児島大馬嶋秀行教授、犬童寛子博士をお招きし、御講演と活発な議論を行った。

タイムラプスビジョンの富田氏が口腔内微小循環系の酸化ストレス可視化に関する映像の紹介から始まった。次に鹿児島大馬嶋教授が歯周病にかかわる活性酸素のご後援を行い、口腔内の強い酸化ストレスが影響することを明らかにされた。また、鹿児島大犬童博士はさらに歯周病がメタボリックシンドロームにかかわることを話され、わが国で 5 千万人以上が罹患する疾患の重要性が改めて認識された。

休憩の後、長崎が活性酸素を消去するナノ粒子の設計と歯周病に対する適応可能性を紹介した。最後に「酸化ストレスと小腸疾患」と題して、筑波大学人間総合の松井裕史講師から講演を頂いた。口腔疾患が酸化ストレスを通して消化器に影響を与えるメカニズムに興味を持たれた。

生物系、歯学系、工学系、臨床医学系の専門の研究者が一同に会して議論をする有意義な時間であった。会には学生も含め 50 名程度の参加者があり、特に若い人には酸化ストレスの疾患に与える科学と医学の基礎から応用まで学べる貴重な講演会であった。

講演会後は講演者らを中心に食事をしながらさらなる研究交流を進めた。本会の最も大きな目的の一つ、異分野研究者の「お見合い」の場はにぎやかに夜遅くまで続けられた。

最後に本シンポジウムに多大なご協力を頂きました文部科学省特定領域研究「ソフト界面」及び世界トップクラス拠点 NIMS 国際ナノアーキテクトニクス研究センターに感謝いたします。

*筑波大学学際物質科学研究センター

第六回学際物質戦略イニシアチブ バイオGPワークショップ —酸化ストレスと口腔疾患—

15:00-15:10

ご挨拶

筑波大学大学院数理物質科学研究科 長崎幸夫

15:10-15:40 歯周病菌が歯肉細胞にアポトーシスをもたらす

-動画からのアプローチ-

Time Lapse Vision 富田 勉

15:40-16:10 歯周病と活性酸素

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 馬嶋秀行

16:10-16:40 歯周病動物モデルとメタボリックシンドローム

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 犬童寛子

16:40-17:00 休憩

17:00-17:30 活性酸素消去剤/粒子の設計

筑波大学大学院数理物質科学研究科 長崎幸夫

17:30-18:00 活性酸素と小腸疾患

筑波大学大学院人間総合科学研究科 松井裕史

2009年11月14日(土)

筑波大学総合研究棟B0112教室

〒305-8573茨城県つくば市天王台1-1-1

主催 筑波大学学際物質戦略イニシアチブ

共催 国際ナノアーキテクトニクス研究センター

共催 文部科学省振学術領域研究「ソフト界面」

